

先輩にさく練習心得

神田順治

野球協会理事長竹腰重

の醸酵味を知る

丸氏のオリンピック帰国
談中には「敗戦後日本では

「スポーツは楽しむもの」と言わ、我々の如く二十年以上も青

年生をした者からみると弱々しく感じられる」と述べられた。

これは戦後「樂しげ」

という言葉に深いされ

苦しい練習に励む構えが不十分になったため、苦しみさえも楽しむところにスポーツの持ち味があることを体験しないで終つてある結果ではあるまい。

そこで、先輩諸氏の教える正しく行なうべき練習についての意見

練習がスポーツのAであり、またBであることを認識し、スポーツが難行苦行と同じ範囲に属するところを把握して、その苦しさを徹底的に噛みしめ、味いぬだけ

ての根本であると思う。いうに易く行なうに難いのは、この精進である。精進といふと如何にも苦しいことを終始するようであるが、精進することを苦しいと思わないよ

うに自分の気持を持って行くこと

の翌日は床屋の定休日のようにき

まつて練習を休むよりは精進とはいえない。負けければなおさらの

こと、敗因となつた自分の欠点を匡正するため翌日から猛烈と練習するくらいの意氣と熱があつて

始めた場合、深刻に敗因を調べることが必要かである。漠然と相手は自分より遙に上位のものであるから負けるのは当然であるとかまだ当

らなかつたから負けたので、当り

さすれば勝てたのだといひて何ら敗因について反省しないほど

やるべきことではない。敗北ほど貴重な経験はない。この貴重な経験を、十分に生かすように努力する者には必ず有利が訪れて来ると思ふ……。

また前年の竹腰氏は、スポーツ

の練習については「肉体で識る要があり」と曰く以下の如く語つてゐる。

「苦行ともいふべく激しい練習を通じて肉体で識る要がある。眼は脳み、脚腰も立たぬと思うほどして得た一つの技能は、身についたものとなって離れない。それは

頭で知つたというより肉体で識つたものであり、その間には常に筋力の向上のみでなく、氣力は練習と廻る一文ある。

飛田穂波氏の昭和十七年秋の大リーグの練習に、「球に向かふを知つて、走る」と題する文章であると題す。

「眞の練習のいかなるものであらかを知つていいのではないか。義務的に行われる練習から示される通う練習を裏む」と廻して次の如く繰り、読む者は深い感銘を与えた。

「眞の練習のいかなるものであらかを知つていいのではないか。義務的に行われる練習から示される通う練習を裏む」と廻して次の如く繰り、読む者は深い感銘を与えた。

「このように考えてくると、筆の讀物の體験から導み出た筆言には、何時の世にあ大いに耳をかすべきであるまい。

スクラップ・ブックから

丸氏のオリンピック帰国
以上は体育協会長東龍太郎先生の「スポーツの醸酵味」(昭和十二年発表)なる文の一節である。次に紹介するのは、早大庭球部長安部民雄先生の床屋の定休日のように、きまつて練習を休む「うてはいけない」(昭和十六年発表)と題する一文である。

「精進する」ということがすべての根本であると思う。いうに易く行なうに難いのは、この精進である。精進といふと如何にも苦しいことを終始するようであるが、精進することを苦しいと思わないよう

うに自分の気持を持って行くこと

の翌日は床屋の定休日のようにき

まつて練習を休むよりは精進とはいえない。負けければなおさらの

こと、敗因となつた自分の欠点を匡正するため翌日から猛烈と練習するくらいの意氣と熱があつて

始めた場合、深刻に敗因を調べることが必要かである。漠然と相手は自分より遙に上位のものであるから負けるのは当然であるとかまだ当

らなかつたから負けたので、当り

さすれば勝てたのだといひて何ら敗因について反省しないほど

やるべきことではない。敗北ほど貴重な経験はない。この貴重な経験を、十分に生かすように努力する者には必ず有利が訪れて来ると思ふ……。

言葉は科学的練習が盛んに提唱さ

れる昨今には、理解に苦しむ人が多いかも知れない。しかし昭和二十九年度の高校選手権大会の参加

章の作者吉田櫻氏は、「血の通う

球の造形化」として次の如く説明している。

「ボールが投手の意図と精神にとけこんで、投手の手中から打者をにらんで『行き』という表情

をする」と感じ造形化したと

スポーツマンの心中に宿る哲学

をすることを感じ造形化したと

され、さらに一つの境地が開けて来る」と。

全国高校サッカー 引分、優勝は預り

東千田と岸和田で

第32回全国高校サッカー選手権大会は西宮で7日西中国代表
東千田と大阪代表岸和田との間に
決勝戦が行われ延長二回一時間五十分にわたる稀な接戦ついに引分け優勝は預りとなつて終つた。
△準決勝
広大付東千田(西中國) 1-1 岸和田(大阪)
△決勝
東千田 1-1 岸和田

河内松吉(木更津)	河内松吉(木更津)
G K E F H B FW	C F G K
川本田島井原橋呂木	川本田島井原橋呂木
堺小吉森重義梅大石日水	堺小吉森重義梅大石日水
△東千田	△東千田

この決勝戦は、大会中の最高の試合であつたばかりでなく、延時試合であつたばかりでなく、延時間にわたり両軍が精一杯に力を傾げた試合では、技術的な欠点を超越した決勝戦に相応しく迫力のあるものだつた。

両校がともに一位といふことなり、たゞ優勝は免しても満足して然るべき立派なものだつた。東千田は予想されていたように

東千田

と岸和田

で

東千田

と岸和田



ともに〇Bが勝つ

だが心強い学生の進境

六、十七の西日西宮球技場で関西OB対関東学生、関東OB対関西学生の二試合実行、二日目は雨上りで悪コンディションだったが、ともにOB重がわずかの差をみて勝った。

解説：両試合ともOBが勝ったタクティックも含めた総合力でやはりOBが優っていたのだが、学生も巧くなつてOBへんと泊つたのが確かに認められて心強かつた。

第一日の関東学生は、『強さ』に欠けていたうらみがありそれが関西OBのブレーク率にさせた。一因たが技術の面ではこれまでになかつた良さをうそろそろしていた。力のブレークがなかつたので関西OBはそう恐しくなかつただろうが、力はないつでも再び呼び起せる年齢にあるのだから、むしろ個人の巧くなつたのを買いたい。FBに新人として正月初めの大手大急に活躍した景山（立教）をみられなかつたの

もさることながら、平木はいつも自ら仕掛けるプレー——しかも大きな動作で——ばかりであるのが大きな欠点で、老朽な加納にとっては待ってましたといいたいところだったからう。両インサイドもよかつた。

FW全般がいつになくませた強味だった。

が悪く、名主はしばしばスカル
ミに足をとられるほどだった。
試合は東海のキックオフに始ま
り。すべり出しは極めて好調で

チームのまゝよりも出来、予想以上の“轟戦”だったともいえる。

東海
交代選手 東海 F B 水野 (愛
媛大) H B 山口 (愛學大) F W 安

いえる。パックスは不安だったたF Bも大過なかつた。守備力としてGK渡部とCH杉本が安定軸となつた。この日の杉本の巧さは関東学生のC FC岡野を完全にあしらつた感じだ。まさに関西O-Bの強みはR.W.木村がよかつたことだ。

【関東O-B選抜】

かといふことをした。この点でこの日は見違えるようになつた。注文したいところの七分通りは出来た。前半中央線でE-Bを内側に抜き、Fが彼の前方へ横に動き、中央へL-I岩谷がノーマークで飛び出した時にOFに出てどうとしないで若谷へ素早くバスを通せたならば、その時はあと三分ももうすぐだ。関東O-BはH-B陣が四チ一ム中で見劣りして関西学生に守勢となつたが、FWの左三人がチャンス3分きれないなバスで関東陣に迫りLW沼波がきめて一点を先に射したが、関東の選手が驚くに従つて東海守備陣は切れ込みの鋭い関東FWのショートパスにかきまわされ、結局6-1-1の大差で関東が快勝した。

5点の開きは当然の結果ともいえようが、この日の東海は名選手ともよく動き、ピックアッププレーみながら五日間の強化練習で一応

後半3分中央線付近からのドリブルで食い込んだら一点差あがけたのは彼らしい強さではあるが、彼のこの日の良さはむしろ効果的に使われるプレーだった。鶴川あたりからのバスもうまくF-Bの背後をついたが木村は中盤でこれまでにみられない球放れのよさを見せた。逆説的ないい方だが、ウイングの巧さはいかに巧く使われるが

つかむ力などこれを抑えていた。得点の二点はLW加納のセイターリング、LI六点のヘソティングが結び付いたもの、二点はCF二宮、LW加納で中盤の団をつくり、二宮が最後にすべきなんだもの。CF二宮が後退しが予想通り展開の軸となつた。に対し関西C.H.岩田一人では意味重かった。

西軍2-1で勝つ

東西学生対抗サッカー

今シーズンの学生サッカー最後のピック・ゲームである第九回東西学生選抜対抗試合は、二十四午後二時から西宮球場で舉行された。前日未明の雨は試合の際によくやくやんだが、グラウンドは水だまりさえあってよく滑り、コンディションは悪かった。試合は西軍の優勢のうちに進んで、力強いプレーに優る西軍が2-1と押し切った。これで東西の成績は3勝3敗3分と同成績となつた。

西軍 2
1-0 東軍

【評】東京学生は朝日招待の対戦西OB戦からメンバーを大幅に変更した。東軍のウイング・ハーフはR.W.恒遠飛込んでシート、それがボストにはね返つたが、帰つて来

た。しかし大半の選手が一朝一日招待から一週間後に再度の遠征という条件は確かに不利であった。

これに対し西軍は地利を得ていたけれども、やはり一週間前の朝日招待で負傷者が多く、量的に非常に疲労なスタツドであった。平木はついに出され、L.W.徳弘をC.F.に回した。

試合は西軍の攻撃で始まった。

西軍の攻撃で始めて1

試合は西軍の攻撃で始まつた。

木岩田、三田は出場したがL.I.

はついに出て、L.W.徳弘を

C.F.に回した。

瑞典のサッカーベンチテクニク
基礎能力を少年時に

大谷 四郎

ボルコントロールの訓練

・チームが遺憾のハンガリー・チ
ームに6-1で完敗したことは、
過去九十年間本国での試合に敗れ
たことはないと誇っていた英國サ
ッカー界に未負得のショックを与
えたが、以来英國のサッカーはこ
れでよいのか、これからいかなる
手を打たねばならないのか等々
と、さも自信の強い英國人もい
まや自己批判にさわがしいようす
聞がかかる。ストップしたあとし
る。ヘッディングにコントロールす
がない。つまり選手は完全な
ボール・コントロールを持つては
ないというのである。

ボール・コントロールというの
は「ボールの統制」あるいは「ギ
ール扱い」とでもいってよいもの
だが、単にトランピングやストップ
ビングだけではなく、キックに寄

デンの例をひいて少年のバッジ、テスト制度を薦めている。スウェーデンは最近二、三年間にイタリアとフランスのプロに苦杯をなめた経験から、この問題に

3卓 4'11" (1½m)	1卓	3卓 4'11" (1½m)
	16.46m	

1、2、3、6、7、8をバブルにはさむ。N₂O₄の端にアリエーティナルバスを立て、各級に課題毎に銅、銀、金をめられた凸鏡を発射するためには、各級にN₂O₄が加えられる。したがって、N₂O₄の量を減らすには、アリエーティナルバスを立てる間に、N₂O₄を減らす方法を考案する必要がある。

の端、ゴールから5㍍から10㍍のところに置かれたポールを竿足で拾う。あとは身体のいろいろな部分（ただし手と脚）を使って、30回の目標を達成する。

真似の音ながら、一六回に一点も通らぬ。例えは左足で巡回も通らぬ。ツチすることは許されるが、ツチにならぬ、左足から右足移った時に一点となる。通過点は銅15点、銀30点、金50点。
【NO・4】障害物ドライブ。ゴール・ラインからスタートしてナルティ・エリアのラインに沿ってドリブル、八個の障害物を跳び再びスタート地点に戻る。タイムは5秒以内（銅メダル）のタイムを4・5秒以内に走る（銅メダルのみ）。

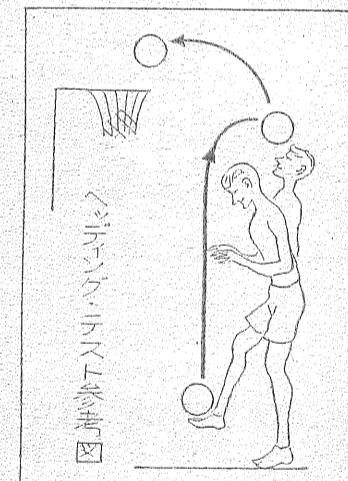
【N.O.9】ヘッティングとソビング。ラインから2時半でボールを地面から足でそれをヘッティングしてライン越し回り側2時(1-83秒)らいでソートラップする。五一回の成功に1点。金メダル通過得点は3点。

以上がテストの標準だが、一ト少年は「ボール・ジャッジング」でのズウェーデン記録者だが、彼は1時間25分簡略化を空中でもってあそんだ。

これらは専門から取る組み 少し
に正しい技術とホール・コントロ
ールを教えるために全力を注いで
いるが、以下は同誌に紹介され
スウェーデンのバッジ・テストの
方法である。

A black and white line drawing of a person from the waist down, performing a lateral lunge. The person is wearing shorts and is barefoot. They are holding a medicine ball with both hands at waist level. Their left leg is extended forward and bent at the knee, while their right leg is bent at the knee and foot is flat on the ground. The person's torso is slightly angled towards the front leg.

[20・6] インステップ・アタックによる正確なグラウンド



シテイク・トマト新

【NO. 6】インステンツ・クによる正確なグラウンドス。16 ft. 14.63 ft. の距離か4倍の間隔に立てられた二櫻の間を連す。左右の足で各計十回のキック。一回の通過点。通過得点は銀6点、金8点。

【NO. 7】カゴに入れるディング。カゴの直径は1メートル。高さは1メートルのこととし設ける。回行って一回成功すれば1点。過得点は銀2点、金4点。

【NO. 8】ドリブルとスアント。NO. 4のドリブルのある時(20-17尺)の短距離疾走。タイムは銀35秒、金32秒以内。

【NO. 9】ヘッドディングとスピニング。ラインから2尺で走りでボールを地面から足であるそれをヘッドディングし、ラインを向う側2尺(1.83斜)らいそこでトライアップする。五回の成功に1点。金メダルを獲得点は3点。

以上がテストの標準だが、少少年は「ボール・ジャッピング」でのスウェーデン記録者たが、彼は1時間25分間水泳を途中でもってあそんだ。

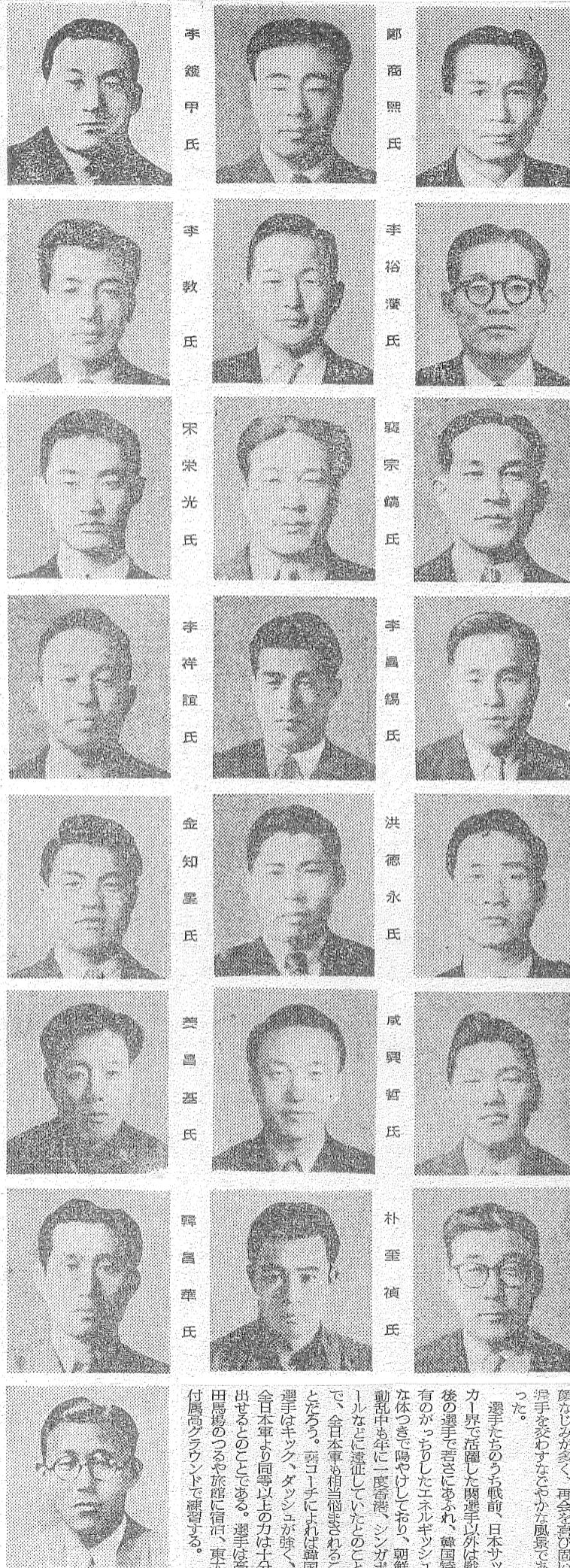
韓國選手団來日

韓国選手

日本代表選手権予選に
エースト勝ちで着いた。

青会理事長、韓國陸運副會長
齋李裕滋(延禧大出)
球協會理事長マコーチ
(早大出)韓國蹴球協會長
マネジャー李昌吉(善隣商
國際審判 金健俊(延禧大出)
國蹴球協會事務局長
△GK 洪德亦(高麗大出)

貞敏（平塚大出）文官、五三年シ
ンガポール遠征 鄧國振 殿櫻
ンガボール遠征 朴建慶（延禧大
出）海兵、四七年上海遠征 崔光
石（瀋陽工出）朝鮮紡績会社員
選手生活八年 成梁雲（東大中退）
陸軍、選手生活十年閔丙大（高
麗大出）文官、ロンドン・オリ
ンピック参加、四九年香港、五三年
若さに溢れる選手
李藍齋、鄭コートなどに「一九三
七年」の日本代表選手に選ばれたこ
とがあり、出迎えの全日本本藍齋
竹野重丸氏をはじめ選会の人々を



林氏

卷之三

楊 賢 敏 氏

朴 磯 窒

藏書石氏

成樂圖譜

閔丙大

鄭國振氏

田馬場のつるや旅館に宿泊、東十
付屬高グラウンドで練習する。

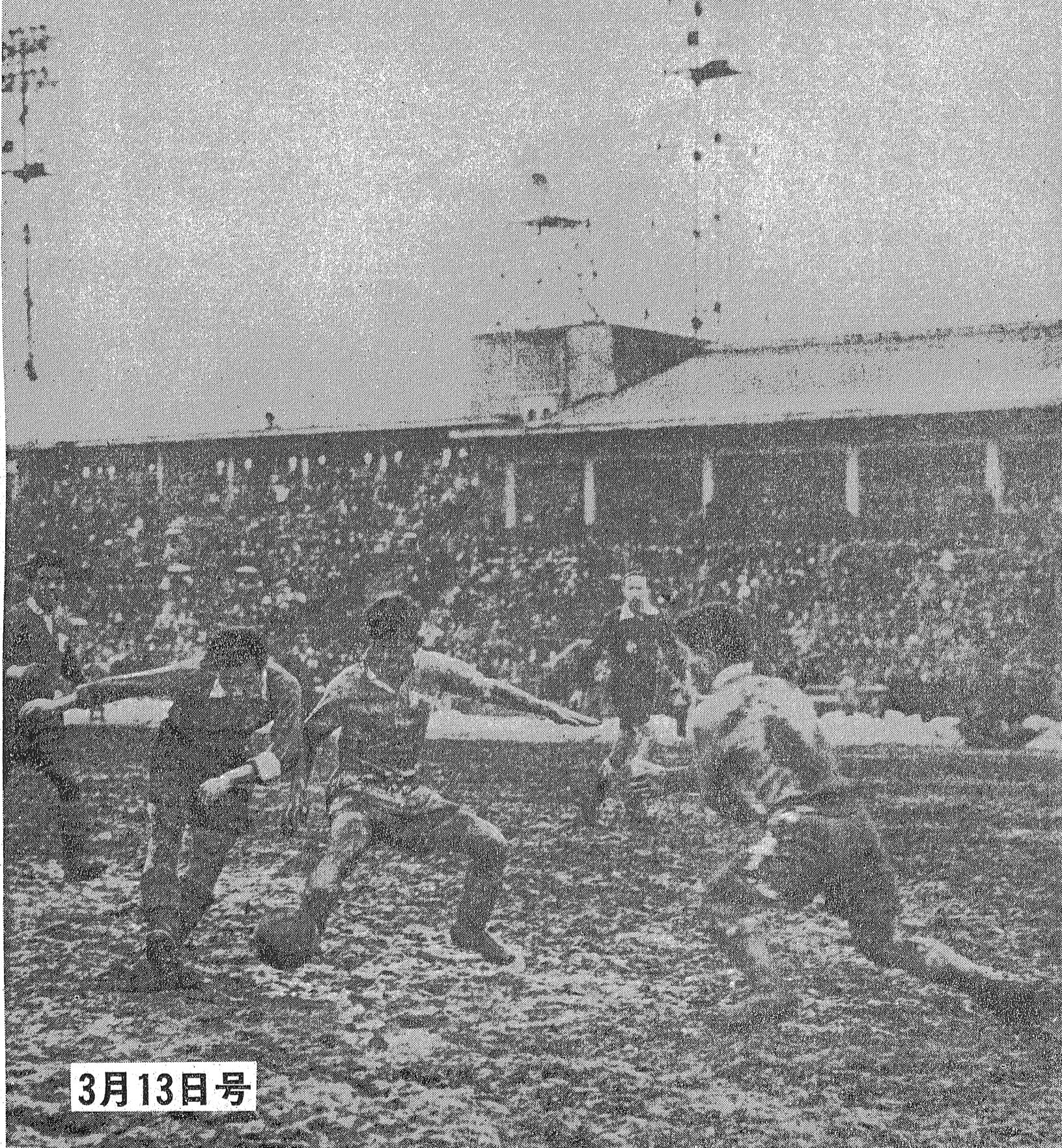
毎週土曜日発行

昭和23年1月10日 第三種郵便物認可
昭和24年2月25日 国税
特別版承認登録 第175号
昭和29年3月13日発行 第872号
編集人 富永正信 発行兼印刷人 春海鉄男発行所 東京本社 東京都千代田区有楽町2丁目3番地 電話(20)131
大阪本社 大阪市北区中之島3丁目3番地 電話(23)131
西部本社 小倉市砂津字富野口北380番地ノ1 電話-2781
朝日新聞

定価 15円

S
29.
3.
13

ASAHI SPORTS



3月13日号

日本、韓国的力量に屈す

世界サッカー選手権予選第一戦

た。韓国の卓越した足首、キック力、回転力の強さは日本をほとんど寄せつけなかった。写真は後半40分R.W.崔光石からのパスをL.I.鄭南湜がシュートするのを日本のL.H.井上がカットするところ。(右から)日本のGK村岡、L.H.井上、韓国のL.I.鄭南湜、R.W.崔光石後方白エリ服は主審ハラン氏。

世界サッカー選手権大会 極東予選日本対韓国第一試合は七日午後二時から神宮競技場で行われた。夜來の雪のため、グラウンド・コンディションは最悪で日本の得意とするショート・パス、速攻が殆んど功を奏さず、韓国チームのぐいぐい迫ってくる力のプレーに日本は5ー1で予想外の大敗を喫した。韓国の卓越した足首、キック力、回転力の強さは日本をほとんど寄せつけなかった。写真は後半40分R.W.崔光石からのパスをL.I.鄭南湜がシュートするのを日本のL.H.井上がカットするところ。(右から)日本のGK村岡、L.H.井上、韓国のL.I.鄭南湜、R.W.崔光石後方白エリ服は主審ハラン氏。

7日・神宮競技場にて 大川写真部員撮影

※ 右ページに闘争記事



六一「戦を予想する」 力ギは日本のFW

球場が良ければ接戦

予想外の差がついた第一回戦だ。この試合から十四日の第二回戦の予想をたててみよう。予るわけだ。それにはやはり第一戦をう一度ふり返ってみなければならない。

韓国チームの力を知る術がほとんどなかつたので、予想といつても遠い昔の印象が自然と重要な材料となつてゐるほどのものであつた。それでも大方の予想は初めに五分五分。次いで雪が降つて韓国に幾分有利と変つて来た。細かい技術の日本、細かいバスを組合せようとする日本に対して体力の優る韓国、強靭な個人技を中心とした韓国が優勢になるだろとは、悪いコンディションでは当然である。しかし、これ程一方的に四点

もの差がつくとはだれも予想していなかつたに違いない。前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

さて一週間後の試合も神宮競技場のコンディションが日本チーム第二戦の成否をかける最大の条件だが、もし上々の状態だったら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

条件が良かつたら、さて一週間後の試合も神宮競技場のコンディションが日本チーム第二戦の成否をかける最大の条件だが、もし上々の状態だったら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

条件が良かつたら、さて一週間後の試合も神宮競技場のコンディションが日本チーム第二戦の成否をかける最大の条件だが、もし上々の状態だったら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。



(写真説明は右ページに)

球場が悪ければ接戦

条件が良かつたら、さて一週間後の試合も神宮競技場のコンディションが日本チーム第二戦の成否をかける最大の条件だが、もし上々の状態だったら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。

日本的第一戦メンバーには幾分ミスキヤストがあつたようだ。恐らく第二戦にはベックスを二、三人変えることになるだろう。L.I.は必ずしも上々の状態だたら、前日雪除けを行つたが全くのひんご、クツの裏にはつづかへはりつく。ボールは全く転はない。コンディションは最悪といつてよい。元来が悪い神宮競技場で経験したうでも未曽有の悪コンディションであつ。その上冷雨も時折舞つて来る。



韓国が極東代表に

世界サッカーハンドブック

〔草団〕脚のまことにした世界サッカーワールド選手権東西戦日本対韓国
の第二戦は、快晴の土曜日午後二時から神宮競技場で二万五千人のファンを集め韓国のギックオフで華行、日本真露戦し、同点二回をくり返す大接戦を演じたが、ついに2-2で引き分けた。

第二戦前半32分、OF虚(右端)
R.B平木のタックルをはずして
ショートしたが、GK渡部(左
端)パンチに逃がれると、

これはインサイドの組織であるナショナルドに配した点で異色の布陣である。またFWはB-1賀川、LW加納はそのまま、RWに鶴田、CFに川本、LIに岩谷を起用した。これには中盤、中央でボールを回し、鶴田、加納のスピードのある笑込みに期待したものであろう。グラウンド・コンディションは良し、選攻、速攻自分の醜態など見るための最良、また自信のある布陣であったから。

日本興業が出しよこしておられたR.W.鷲田へよくボーリングをして3分、4分とつづく絶好のセントアーリングがあつたり、8分にはR.H.高林→L.W.加納→L.I.岩谷↓R.I.鷲川と渡るクロスバスやね

県して2分F.H.→W.J.R.I.と笑込まれ、G.K.倒れて落したボルをE.I.鄭が引つかけて同点となり42分にはR.W.↓R.I.↓C.O.と解かなるパスをC.F.走きぬて又も一回戦同様前半2-2-1と、韓国のリード

トをLBの好カバーで選ばれる。惜しい逸機があった。結局、雪辱感や恨みをのんだだけだが、追うもの、追われるもの、と想い固くなりすぎた感はあるがますます戦。それにシュート数日本11、英

國の爲めに、結局日本側にとって攻めあぐねたはなく、さあどうで引分けたといふべきである。なま今後あること、やたらに役員が場内に立入らぬよう訓練を望みたい。

水から出たバスを左に回したもので、この辺りからのクロスバスもよく通り FWのショートバスも流れるようである。しかし押しきりの際の運転が危い。一回戦同様の先取点とダンクスをかづくわけではないが、とにかく韓国UHなどに渡ると CF ↓ LI ↓ LW、また CF → RI → RW ↓ RI → C F というまつたコースで一度はコール前に入戻るから、こ

田中大輔・鶴見・鶴田のショーケンが反対側ボストに当るという不思議な構成であった。

さぶり、12分にはO.F.川本の初ミート、13分にもR.W.鶴田のセンター、14分でW加納ヘディングをターリングをW加納ヘディング

ドが或った。この一点に見せた
ウトサイドを使う足技と、これ
ぞ恐くて最も閑熟したきの手な
だらう。日本バックス手も足も
ぬ鮮かなものだった。しかしハ
ブ・ターム真前、日本も吉本も

國10のそれぞれがことじこときの
どいものだつたので販賣も続出で
よりしほしほで一々を中断され
たものの最後まで興味を盛りあは
た。日本H.B.ラインはサードの振
うちを力なくして、ついで、日本はコ

S29-5-8

リーグ勝利出場権を失す

サッカーワークショップは、一日からリザーブ・スタジアムで参加十二国を三国ずつA、B、C、Dの四グループに分けて予選リーグが行われているが、日本はOグループで強敵インド、インドネシアと戦ったが、武運つたなく両試合に敗れ、決勝リーグへの出場権を失った。

サツカ一はリザーブ戦投で
照明下にAグループ、Cグループ
の予選二試合が行われた。スタ
ジアムは八時半満員札止めという
ものすごい観客を集めた。台湾
がウエトナムに3対2で勝利し
た後、日本はブルーのシャツ、イ
ンドネシアは赤のシャツで対戦し
た。

△三四 ナム バキス タン	△二日 ナム バキス タン	△二日 ナム ビン
6 5 1 1 1 2	6 5 1 1 1 2	6 5 1 1 1 2
△四日 ビルマ 1 1 0 0 1 1 ボトル シング ボトル シング ボトル シング ボトル シング	△四日 ビルマ 1 1 0 0 1 1 ボトル シング ボトル シング ボトル シング ボトル シング	△四日 ビルマ 1 1 0 0 1 1 ボトル シング ボトル シング ボトル シング ボトル シング
△C組(一) インド ネシア 5 1 4 1 1 3 日本	△C組(一) インド ネシア 5 1 4 1 1 3 日本	△C組(一) インド ネシア 5 1 4 1 1 3 日本
△C組(二) 香港 韓国 8 3 5 1 0 2 2 ニースターナ 韓国	△D組(二) 香港 韓国 8 3 5 1 0 2 2 ニースターナ 韓国	△D組(二) 香港 韓国 8 3 5 1 0 2 2 ニースターナ 韓国

ンバー。日本が前半十三分、加納
がペナルティ・キックをものにし
て1対1の同点にしたる辺りが
ママミーの最も印象的で、マスクの毛
子ードはインドネシアより脱いだP-
リント田と委代)長治(後半諒林)
川本、二宮、加納。

S29-5-15

1位 台湾
2位 韓国
3位 ビル

3位 ビルマ
△淡勝トーナメント(6日)

試合開始直後の技量の発揮に差

作戦、用兵を誤った日本

力一ツ

出場チームの実力の差はなく、どの試合も白熱戦を演ずるだろうと言つて一般的の噂であつたが、果して各序一ムに好試合の運びで、演夜数万の観衆を集めめた。結局、上りに元気したチームを結集した台湾が優勝した。二位の韓国、三位を獲得したビルマ、四位のインドネシア、それと優勝チーム台湾と完全に互角のゲームをやつたベトナム等が台湾に次ぐ一級チームであり、その他シンガポール、香港以下の各チームも、ど大差のない力量でアジアにおけるサッカーフットボールの盛りだくさんである。その他のシンガポール、香港以下の各チームも、

予選A組では台湾が軽く優勝したが、ベトナムが台湾のラフなプレーに対してもよく対抗しました技術の面でも懸念していながら驚かされた。

パキスタンの底力

B組は仲々面白く、第1試合にあまり下馬評にも上らなかつたパキスタンが地味ではあるが底力があり、ゼビビとしたプレーのシンガポールを6-2の大差で破つた。第二試合はシンガポールと一对の拙戦をしたビルマがパキスタンとのゲームにはグンと巧味を



川本泰三氏

上りに元気したチームを結集した台湾が優勝した。二位の韓国、三位を獲得したビルマ、四位のインドネシア、それと優勝チーム台湾と完全に互角のゲームをやつたベトナム等が台湾に次ぐ一級チームであり、その他シンガポール、香港以下の各チームも、

予選A組では台湾が軽く優勝したが、ベトナムが台湾のラフな

プレーに対してもよく対抗しました技術の面でも懸念していながら驚かされた。

日本の敗北は順当

C組はインドネシアの二勝、印度一勝一敗、そして日本二敗となりたが、残念ながらこれは妥当と見えたが外れない。日本のこの二試合は大体似た経過をたどつた。立ち上がり早く先手をとられて先手を取つたが、第二試合はシンガポールと一戦インドネシアの場合には4-1、インドネシアの場合は4-1、

前半で差を付かれた事(第一

試合の時は4-0)後半直

川本泰三

としてこれを破り、その後次第に

調子を上げて勝勝に進出した。

このビルマにはスコットランド人(アフロ)のコーチが付いており彼は日本の試合を見て「矢張はショートの雪だ」と力説していたが、果して各序一ムに好試合の運びで演夜数万の観衆を集めめた。結局、上りに元気したチームを結集した台湾が優勝した。二位の韓国、三位を獲得したビルマ、四位のインドネシア、それと優勝チーム台湾と完全に互角のゲームをやつたベトナム等が台湾に次ぐ一級チームであり、その他シンガポール、香港以下の各チームも、

予選A組では台湾が軽く優勝したが、ベトナムが台湾のラフな

プレーに対してもよく対抗しました技術の面でも懸念していながら驚かされた。

パキスタンの底力

B組は仲々面白く、第1試合に

あまり下馬評にも上らなかつたパ

キスタンが地味ではあるが底力があつたが、ゼビビとしたプレーのシンガポールを6-2の大差で破つた。第二試合はシンガポールと一对の拙戦をしたビルマがパキスタンとのゲームにはグンと巧味を

し、三十分钟の間の彼等の打合にはい追加点を許したこと(第一戦はまずもがなのペナルティ・キック、第二戦はゴールライン上に浮く球をゴールインと認定された)

後ため押しとも言うべきあつつけない追加点を許したこと(第一戦は割合良く動いた選手は宮田、松永、大塚のバック陣と、テランの二宮、若手では高林だけでその他はなしである。

それに作戦上、用兵上に誤りがあつた。しかしこれはあくまで結果論で日本チームとしては既定の作戦遂行するために最善の編成で臨んだのは勿論である。それは

ピルマのFWは矢張りよい時機のイントネシアの消耗を大きくなりだけ球を回してエネルギー不足のインドネシアの消耗を大きくし

前半は何とかしてタイか、悪くて最も少の点差を持ちこたえ、後半

を勝つと言う作戦であったが、キ

ーパーのショートバス

大正期に日本へショートバス

システムを持ち込み組織的なサッ

カーハーの展開に大きな功績を残し

青草のシートをしていた。

決勝は台湾の独走

決勝は台湾のゆうゆうなる独走に終始した。韓国は試合を通じて特有のスタイルを最高度に發揮すべき状況をつくり出すことが出来なかつた。メンバー編成に苦心の跡が見受けられたが、チーム全員が相当な力を持っていた。韓国は決勝トーナメントで浮き立つたが、それが相手を攻めながら弱いとうわさされていなかった。

台灣は攻守とも全く素晴らしく、身体のコナシと正確無比な操縦

技術を持っており、確実なパスを

通りすがりで、クラウンドを常に広げ、

勝負は台湾が負けずに追って素晴らしいゲームを展開した。しかし中

盤の巧みな台湾はよく球を回し

てジリジリと印度ネシアを押し

始と同時にイギリ例の如く最高

点を台湾が奪けずに追って素晴らしいゲームを

前ではわざかなさにトラップ。

シートを成功させている。L

W、O、F等は台湾優勢の立役者と

使って敵守備陣を分離させゴール

前ではわざかなさにトラップ。

シートを成功させている



慶応早大に辛勝

早慶サッカー定期戦

第五回 早慶サッカーリ定期戦ナイト

術的水準が不満足なものであるなどと言う気は一回はないし、またその点の批評の適任者でもない。現在両校が学生リーグの上位チームでないこともまた問題でなかつた。伝統ある両校の激しい試合と大體衆、ナイター特殊の美しさから見て見たい。

戦後日本サッカーの国際試合への進出は戦前に比べて顕著なもの

早瀬サッカーリ後半30分早大工
ール前、慶應大石コーナーオフク
を得たが早大CHH両ヘッディング
グで防ぐ

激増したファウル

したフアウル

進歩もあつたと考える。その結果、早慶ナイターに限らず試合記録で数がアーヴィルの数が戦前とくらべて極めて異常にふえた。双方15くらいするのが普通で、この中にはゴールキーパーに対するなくともがなのではじめのするアーヴィルが必ずあり、これらはアーヴィルがロングタイムフアウルのみならばまだしもたゞかかるのが多過ぎる。この点について慶應先輩は「オックスフォード対ケンブリッジの試合でエリーはアーヴィルを取らなく

練習の時にやつてないことを試合でやろうとするところに無理がある。練習の時に試合よりも一歩解釈を少しゆるめて、自己の能力の限界を知るためのプレーをやっていれば、試合の時のファウルプレーは減少すると思う。

当日足を負傷した選手が四人出たが、レフエリーの見逃しかグラウンドが柔軟だったのか選手が無理をして過ぎたかだが、恐らく最後の理由であろう。正当なチャージ即ち肩で相手の肩をベンと押し

サッカーは団体競技ではあるが個人の力が相當で大きな競技であり、全員伝統をかけてよく動いたが、廢の岩淵、北島、早の胡等の戦闘精神は實質に値する。戦後よく目についた球をちよつと引いてドリブルしてさっぱり展開のない小技は見られなかつたことも誠に結構なことだつた。

て全身をいでシャンプするようになつた。審判を信頼してのびのびとジャンプしなければいけない。自分の防衛が四分、球を取る意志六分の戦後のヘッディングは影をひそめた。技術的に見ればB戦が優れ、動きもなかなか激しくエラーであったが、私は現役戦の方を見て面白かった。矢張り練習しているプレーヤーのゲームにはまた味がある。こう感じたのは私一人だけか。（筆者は日本蹴球協会審判員、東大OB）

「もうそういう戦合にしてもよいのだ」と答えたが選手の心構えは胸桜とともに現在でもそぞろだと小生は信じているがどんなものだらう。しかし神経質な審判もまた力強い筆

ズ、バックスなどを研究すべきだ。
たとえ相手がブロックしている時
でも、肩で相手の肩をチャージす
る以外は一切正当なチャージでは

必要条件であろう、ノーマンテイン
ドに落ちた球が相手より早くされ
る努力が試合のイニシアチーブを
取るか取らぬかを決定する。
「ツーディング」もよくなつた。力

Digitized by srujanika@gmail.com

関東大学サッカーチーム 前半戦から

卷之三

から互角の形勢だが、數大には弱味が感ぜられる。

中大は強い強いどうせさ
ていたが、明大に4-3と食い下
がられて以来バックスの弱さを露

優勝の予測全く困難 明、東を除き実力は伯仲

関東大学は今が一・リーグ戦を
シーズン前哨を終えたが、前年の
勝者教育大は今年こそ攻守共に最
も充実して優勝候補の第一に挙げ
られていたにもかかわらず慶應大に
敗れ、早大と引分けるつまづきを
見せた。さういふと昨年上位の中大は
早大に完敗し、立教は明治と引分
けるなど、かつてない興味をそ
る争いとなつた。

前半の成績では慶應が3戦全勝、中央大が2勝1敗、立教が勝て引分け、教育大が2勝1敗1引分け、早大1勝1敗1引分け、明治1引分け3敗、東大4戦4敗で、明治、東大はちょっとと落ちるが、他の五校は実力全く伯仲し後半のがん張りいかんでは土屋座はむかへてこれが落ちるか予断はつけ難い。

慶應は攻守ともに大した強みは見受けられないが、十一名の金貴が良く田結してねぼの通すがん張りが良い。攻撃はG-1スーズ若狭もさして好調とはいえないから確実な得点コースは持っていないがゴール前の寄せ、突っ込みも悪美さがあるから何とかで点を落すことが出来る。守備はH-B北風、荒川、三村が良く動いて最小限に防いで力一杯の健闘をしているようだ。



立大対明大戦後半40分、立大R I 高橋（左）
ヘッディング・シュートしたが、明大G K 牧
野パンチで防ぐ=10月31日・神宮競技場

から互角の形勢だが、數大には弱味が感ぜられる。
中大は強く強く、とうわざされ
ていながら、明大に4-3と食い下
がられて以来、バックスの弱さを察
感し、早大には、2で完敗して
しまった。吉原、内野、田中、長
沼、内山と並んだFW線は、りーク
随一の強みを持っており、各自の
持ち味を發揮しなければならない。に対し
ても、三、四点の得点能力を藏して
いるが、守備陣は西FBががた落ち
て、ウイングの強い相手に対しても、
は右往左往するのみで壊滅の危機
をはらんでいる。この点が見て
CFやウイングの強い數大に対し
ては、戦慄を予想されるが、慶應、
立教に対しても相手FWが片もん
ばたがら有利に戦えるであつう。
教育大は、前年度メンバーから
GK岡岡が抜けたのみ、最も油の

乗ったチームであったが、慶大の伏勢はまんまとしてやられ、早大をも制しかねて苦境に陥っている。が、体躯に恵まれただのチークは例によつて守備が強く、FWも両澤深沢、山中の進境とCF福原の鋭い強い突っ込みで確実な攻法を躊躇つつけ、攻守ともに一番まとった力を持つてゐる。中大、立大の二試合のみ残しており油断されなければ制勝の可能性があるからまだ優勝の望みが残されてゐる。

は明大、東大、慶大を残してお
り、早慶戦に力を発揮出来ればこ
れも教育大と同点といつける選
みが多い。

結論とすれば慶大、立大、中大
は今後自力の活躍いかんによつて
首位を争う圈内にあり、教大と早
大は他校の勝敗いかんによつて左
右される他力本願的な立場におか
れてはいる。だが、今シーズンはダ
ーツホース早、慶西チームの力闘
が前半に目立つてゐたから、王座
は最後のどたん揚までお預けの形
となるのである。

関東 大学サッカーリーグ



関東大学サッカーリーグ(最終成績)

立早・慶應戦前半		立大・東大戦後半	
●	○印勝2点	●印負1点	
立早	10	立大	11
慶應	9	東大	14
明東	7		
中大	7		
明大	6		
東大	3		

立早・慶應戦前半
立大・東大戦後半
立大右コーン
大R・高橋のヘッド
イング・シュートも
阻まる。28日・神宮

立教対慶應戦前半 25
立大・慶應戦後半 25
立大を除く、立、早、
慶應の五大戦は実力全く伯仲
して興味ある熱戦をうつけたが
結局立教はついていたと言ふより
立大・慶應の自覚まし

立大右コーン
大R・高橋のヘッド
イング・シュートも
阻まる。28日・神宮

立大・慶應戦後半 25

立大右コーン
大R・高橋のヘッド
イング・シュートも
阻まる。28日・神宮

立大・慶應戦後半 25

立大右コーン
大R・高橋のヘッド
イング・シュートも
阻まる。28日・神宮

立大・慶應戦後半 25

関東総評一 藤工

関東と関西の大学サッカー・リーグは、関東が立教、関西が関学の優勝で終幕した。初優勝の立教と古豪慶應の東西の王座を争う一戦は、十一月神宮競技場で行われるが、それに先立ち両リーグの今シーズンを顧みての総評を試みた。

幸運に恵れた立教

印象に残る早・慶の奮闘

立教の4勝2分け

の戦績が示す通り稀に見る熱戦であった

が、優勝候補にあげ

られた教育大、

中大が対立教に負傷者を出す事

故も手伝つたため立教は中盤戦を

幸運にバースしてトップに立ち以

後慶應の食い下りに苦しんだが引

分けで王座を獲得した。今シーズン

は明大、東大を除く立、早、

慶應の五大戦は実力全く伯仲

して興味ある熱戦をうつけたが

結局立教はついていたと言ふより

立大・慶應の自覚まし

た。

立教対慶應戦前半 25

立大右コーン
大R・高橋のヘッド
イング・シュートも
阻まる。28日・神宮

立大・慶應戦後半 25

※右ペ-ジのうつづく

物足らぬ関学の力

特筆・大經大の二位進出

関西總評
大谷四郎

関学は最終日関大に分け全勝を逃し、その優勝は戦
闘六回目、大正十二年以來連貫十七回目である。関学優勝といふ結果は予想通りのものだった。昨年関学から優勝を奪ひるのに數々を破つて東西の一位となつた関大が負傷者続出に編成難を訴え、大絶大、京学大が接近して来たが今一步の底力に欠けているとき、豊富な子備陣にも思はれて個人的に激しい練習に鍛えられている関学の優勢はやはり否めないものだったのである。しかし4時1分の優勝を振返ると僅々たるものだったことは決していい切れない物足らなさを感じてゐるのは残念だ。1局分といふ記録があることだけでなく、全試合を通じていつも“あつこやれ”“ううん”“ううん”といふ試合振りを繰返していたからである。最後の関大との引分、大絶大との苦戦大半を10名で戦っている原学大に対して試合振りなど特に感じさせられたことだった。

各ライバ個人的につみると、他

関西総評四郎大谷

関学は第一回比べて決して弱気ではない。練習の足った走力、強いキック力がここほどそろつてゐるところはやはり見当らないのである。

これは最も基礎的なものでわざと立派な素材を持つてゐるといふ。関学が年々歳々その原動力としているのはこれらの素材であり毎年同じような基礎的な力を維持していくことは大したもので、その努力には敬意を表したい。ほどだ。だが、その素材がただそのままに並べられたかの如く、各個別には力一杯働いてはいるが、チームとして一つの総合された力となつていなかつた。これが“もつともそれそらうなのに”と思わせたところなのである。

最もいい例は、最後までそれらしい味をみせなかつたFWラインである。ことに岡本、北、立木のセンターラインは個人的に優秀な選手ばかり、関学最大の強味といつたといふところだつた。であるのにつきにまつまつとがつつかずバラバラのままに過ぎた。FBから上った平木がやはりFWプレーにな



関学左・右、関大戦前半
分、関学左コーナーに
・キックのボーラーも
関大GK古川パンチで
防ぐ。28日、西宮

じめず、彼が精力的な動きで暴れれば暴れるほど他の二人の動きがこれなくなつた感じ、ここにし工本という器械の活きた試合をみるとことが出来なかつた。ワイングにしても、木村、徳弘時代の深く走らすワイング戦法は今年の非力ならワイングの持ち味を利用していないかと思えた。

る試合中は、もかく、対闘大戦の
ように苦くなつてからと強いキ
ックがただけり返すだけのいいに
終り、チーム争体として攻撃の重
点などと見出そらむとしているの
がつかみ難くなつていたのであ
る。

上位四校の競合

関西学生	サッカー成績
(△印は引き分け)	
関大関東同神	点
学経大学大商	9
○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	6
△ △ △ △ △ △ △ △ △ △	5
● ● ● ● ● ● ● ● ● ●	5
× × × × × × × × × ×	1
勝は 2点 分は 1	
点、負は 0	

(△印は引分け)
 関大関東同神
 学経大学大商
 關學
 大經
 関大
 関東
 同神
 大商
 勝は2点、分は1
 点、負は0

から各個の力を最大十分頑張りしながらチームとしても一番まとまりた力を持っていたのはこの大経大だった。これは表面その成績が精一杯のものだったということにもなるが。

関大の二連勝ははじめから無理だった。負傷のためH岩田は全然使えず、R西条の出たのも一試合FWの窓も無理に出現。元来がメンバーセットでないところへこの負担は全く痛かった。しかし、閑学に対した時には予想外に戦つてよく引分けた。まず相手より先にスタートして相手に余裕を与えたことが成功したのである。ついに三位に落ちたが、R未広とG古川に助けられて最終戦にたどりつき、最後には全員十分働いた。古川はしばし危機を救つており、将来希望をかけられているギーベーだが、今年はぐんと落ちついて来たが閑学生駒の

教大の初優勝成る

全国大学サッカーリーグ 延長四回の決勝戦

本社後援第三回全蘭大学サッカーリーグ

全国から十九校をもつて神宮球場

開催された地方チームは昨年度

ほんとが同戦で脱落。わずか

に東北学院大が関東大学リーグ一

部の明大を破り、三回戦で中大に

延長の末敗れるといはずばらし

健闘ぶりを見せたに過ぎなかつ

た。

準決勝には三回戦で関東リーグの勝者立大を破る番狂わせを演じた東大と、順調に勝ち進んで来た中大、教大、早大の四校が残った。が、いずれもFWに決定力が無く一進一退をつづけ延長に入り、ともに相手で中大と教大の間で決勝が争われるところを決める始末だ。

▽二回戦

東大 3
立大 6
(抽選勝)

東大 3
立大 1
(抽選勝)

東大 4
立大 1
(抽選勝)

東大 3
立大 0
(抽選勝)

東大 4
立大 1
(抽選勝)

東大 3
立大 0
(抽選勝)

△決勝

△決勝

△決勝

△決勝

△決勝

△決勝

浦和、二度目の栄冠

全国高校サッカーリーグ

第三十三回全国高校サッカーリーグ

手権は一、三、四、六、七日の五

日間西宮で行われたが中関東代表

浦和高が三年振り二回目の優勝を

とげた。今年は地方勢の進境が一

層現われて各試合は昨年とまじて

接戦を展開した中で、浦和と刈谷

が決勝に進み、刈谷は攻守の均整

と組織力で、浦和はさらに大型運

手を持つ野性的な強みもあって決

勝にふさわしい顔合せだったが、

結局浦和の大きなスケールが刈谷

を上回り優勝へと導いた。

優勝した浦和高チーム

△一回戦

△二回戦

△三回戦

△四回戦

△五回戦

△六回戦

△七回戦

△八回戦

△九回戦

△十回戦

△十一回戦

△十二回戦

△十三回戦

△十四回戦

△十五回戦

△十六回戦

△十七回戦

△十八回戦

△十九回戦

△二十回戦

△二十一回戦

△二十二回戦

△二十三回戦

△二十四回戦

△二十五回戦

△二十六回戦

△二十七回戦

△二十八回戦

△二十九回戦

△三十回戦

△三十一回戦

△三十二回戦

△三十三回戦

△三十四回戦

△三五回戦

△三十六回戦

△三十七回戦

△三十八回戦

△三十九回戦

△四十回戦

△四十一回戦

△四十二回戦

△四十三回戦

△四十四回戦

△四五回戦

△四十六回戦

△四十七回戦

△四十八回戦

△四十九回戦

△五十回戦

△五十一回戦

△五十二回戦

△五十三回戦

△五十四回戦

△五五回戦

△五十六回戦

△五十七回戦

△五十八回戦

△五十九回戦

△六十回戦

△六十一回戦

△六十二回戦

△六十三回戦

△六十四回戦

△六五回戦

△六十六回戦

△六十七回戦

△六十八回戦

△六十九回戦

△七十回戦

△七十一回戦

△七十二回戦

△七十三回戦

△七十四回戦

△七五回戦

△七十六回戦

△七五回戦

△七十八回戦

△七十九回戦

△八十回戦

△八五回戦

△八十一回戦

△八五回戦

△八十三回戦

△八十四回戦

△八五回戦

朝日招待サッカーの思い出

笠原 隆

秘にどうぞ招待サッカーの想い出。いつも楽しい想い出である。昔のことになるが、私の現役時代、私は西宮南甲子園へ行った。相手は神戸商大、関西学院、京都大学、関西大学で、それぞれ一回戦った。神戸商大はいまの神戸大学だったと思う。神戸商大との試合が誰か招待サッカーの第一回だった。そこで私は自分たちの練習を始めた。そこには現在の韓国をも含めてまだ学生選手がサッカーハンドボールの第一回まで撮影している。時代で、慶應、早稲田、関東大、関西大、関大をも含め、まだ学生選手がサッカーハンドボールの第一回まで撮影している。

これがいつもの想い出である。昔のことになるが、私の現役時代、私は西宮南甲子園へ行った。相手は神戸商大、関西学院、京都大学、関西大学で、それぞれ一回戦った。神戸商大はいまの神戸大学だったと思う。神戸商大との試合が誰か招待サッカーの第一回だった。そこで私は自分たちの練習を始めた。そこには現在の韓国をも含めてまだ学生選手がサッカーハンドボールの第一回まで撮影している。時代で、慶應、早稲田、関東大、関西大、関大をも含め、まだ学生選手がサッカーハンドボールの第一回まで撮影している。

招待サッカー 従来の成績

第五回	W M W	2 {2-1} 1	慶 学
(昭和12年)			
慶 大	2 {2-0} 1	神 商 大	
第十二回	慶 大	6 {6-1} 3	關 学
(昭和13年)			
京 大	5 {1-0} 2	東 大	大 大 学
第十三回	慶 大	2 {0-0} 0	京 大
(昭和14年)			
東 大	8 {3-1} 2	關 学	
第十四回	慶 大	2 {2-0} 0	早 大
(昭和15年)			
明 大	2 {1-0} 0	神 高 商	
第五回	慶 大	8 {3-1} 1	慶 大
(昭和16年)			
早 大	5 {5-0} 2	慶 学	
(昭和17, 18, 19, 20, 21, 22年中止)			
第六回	全 早 大	3 {2-2} 3	全 神 經 大
(昭和23年)			
全 関 学	6 {2-1} 3	全 慶 大	
全 東 大	4 {3-0} 0	全 京 大	
全 関 大	2 {0-0} 0	全 文 理 大	
第七回	全 慶 大	1 {1-1} 1	全 神 經 大
(昭和24年)			
全 東 大	1 {0-0} 1	全 関 大	
全 文 球 大	5 {2-1} 2	全 京 大	
全 関 学	2 {1-1} 1	全 早 大	
第八回	全 神 大	3 {0-1} 1	全 立 教
(昭和25年)			
全 慶 大	2 {2-0} 1	全 関 大	
全 東 大	3 {2-0} 1	全 神 商 大	
全 早 大	2 {2-1} 1	全 関 学	
第九回	全 慶 大	3 {2-1} 1	關 学
(昭和26年)			
神 商 大	3 {0-1} 2	早 大	關 大
第十回	早 大	2 {0-0} 0	關 大
(昭和27年)			
關 学	5 {1-0} 1	慶 大	
第十一回	慶 大	2 {2-0} 1	關 O B 選拔
(昭和28年)			
關 O B 選拔	4 {3-1} 1	關 学	西 部
第十二回	關 O B 選拔	3 {2-0} 0	關 学 選拔
(昭和29年)			
關 O B 選拔	3 {1-1} 2	關 学 選拔	西 部

伸び伸び闘えた喜び

いいプレーをやる絶好機

だつたことは嬉しい出来事で早く球を蹴りたい連中ばかりなので早速連中には最後の想い出であり、新しく選手にとっては貴重な試合だった。もつたようだった。思話まる思いを一度も二度は必ず味わわれるリーグ戦、東西対抗が終ると一応開放されるが、新年を迎えてそろそろボールの感触が恋くなる時分にこの試合が訪れる。休憩で帰省するものもあり、まとまつた練習はできないのでも各自は自分で自分の調整をする。私は時々東京に残り日吉のグラウンドを走つたり、ボールを転がしたりして、弱者は上々だと独り恵みに入つていたこともあつた。こんな次第で自由に回復し調整された体力と日々の練習に物をいわせるから大丈夫だという自信、たどりにも奇跡的な気持だがと角りたくないための多少の不安が混つたところだ。

その時の闘志はたしかに潤る陽性のものだつた。タイトルとか順位とか直接付いていないシズン中のゲームと異り、これらを考慮に入れる必要もなく責任感から開放せられたといふは語弊はないが、わずか一日でチームの氣持がみる見る盛り上つたの

まつた。みんなが芝生で早く球を蹴りたい連中ばかりなので早速連中には最後の想い出であり、新しく選手にとっては貴重な試合だった。だから、各人各種いろいろの想い出の種となるのも当然だがこの気持はみな一縦だつたらこの気持はみな一縦だつたらこの気持はどう変わったか知らないが、朝日招待の持つていたこの清新な持味は永く生きておきたるものである。

試合のなかにはいわゆる片戦といわれた試合もあつたようだが、また豪勢らしい出来栄え余心のゲームと思われる試合も少なくない。いまは故人の右邊備蓄、それから片戦と私ども神戸一中時代からのボール仲間で南甲子園が二戻しで東京側のチームには共通して優勝していたようだ。

よく想い出すのは関大とのキックオフ直後あつていう間に右サイドからするすると抜かれて先取点をとられてしまつた場面だ。その年は関大はすぐ強いくどかされていたので全く度胸を抜かれたといえる。しかしまた、その瞬間に逆に猛烈な闘志がからりもりわき上るのを見えたのだ。以後八点で破つた時の東大の強さが東大の強さといふべきである。

長いリーグ戦を通じても印象的なかつて関西側にもなかなか手強の生一本を抜けたそうだ。長いリーグ戦を通じても印象的なかつて関西側にもなかなか手強の生一本を抜けたそうだ。長いリーグ戦を通じても印象的なかつて関西側にもなかなか手強の生一本を抜けたそうだ。

いとこがあつたのも確かだつた。昭和十二年の第一回の慶應対神戸商大、早稲田対関学、第五回の早稲田対の東大対関学、第六回の早稲田対の慶應対第二回に慶應、第五回に慶應からそれぞれ六点、八点を奪つた。前半は愉快なほど得点したが、関学は後半猛反撃を食つて逆に2-0となり一得点した。

長いリーグ戦を通じても印象的なかつて関西側にもなかなか手強の生一本を抜けたそうだ。

いとこがあつたのも確かだつた。昭和十二年の第一回の慶應対神戸商大、早稲田対関学、第五回の早稲田対の東大対関学、第六回の早稲田対の慶應対第二回に慶應、第五回に慶應からそれは「会心の出来事、心身一

いものだった。あのほめる

こと

ある。

當時斬新なデザインで四チーム

のスクール

カラード

を染め分けた

七宝のメダルをとり出して十五

以上になる昔を懷し思つ

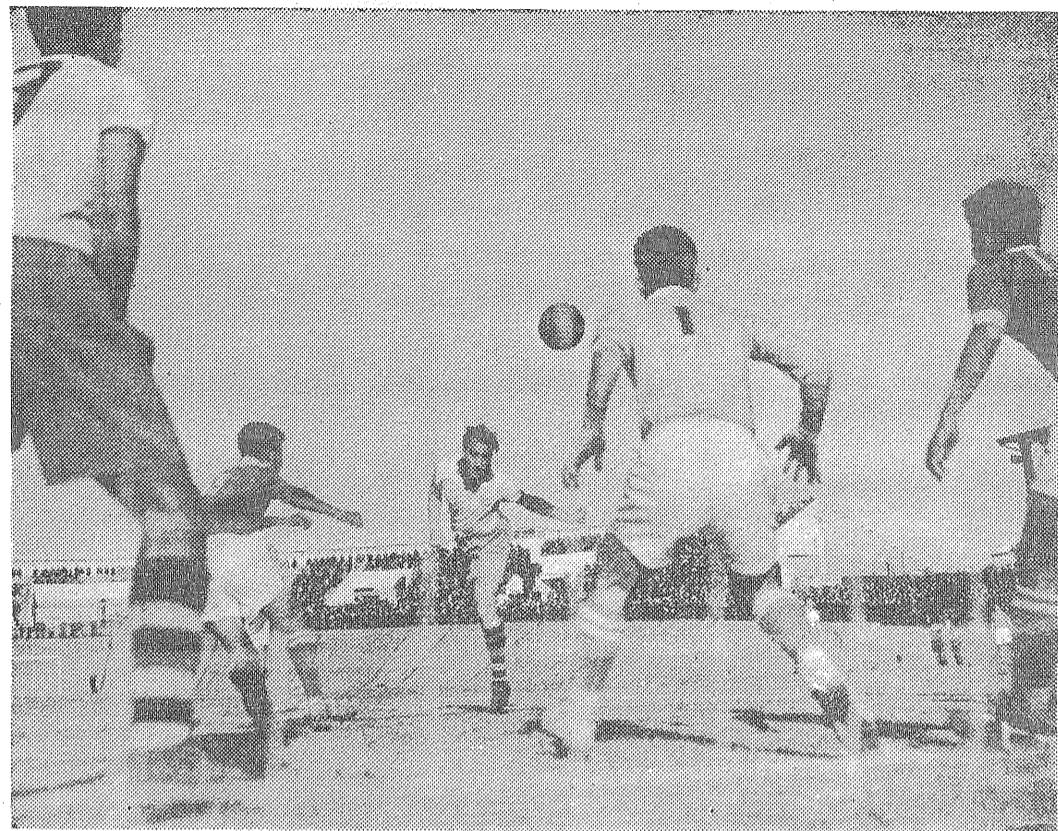
。

（筆者は慶應OBO、東亞大会などに日本代表として活躍、現在三段

鉱業大阪支店勤務）

後半10分、CHフロジオの見事なヘッディングショートはバーに当ってゴールならず

S 30-2-1



素晴らしい個人技

すべてに劣つた日本

グラスホッパーを見て

グラスホッパーは予想以上のすばらしきだった。選手の背はそれ程高くないが肩幅は広く、胸板は厚く、おそらく平均一千貫もあるだろうという堂々たる体格である。しかも身のこなしは軽く、どういったまゝで自由奔放、それにダッシュが早く大きな身体が突出する。全く思いがけない所で突然飛んでいた。味方の位置を瞬間に好判断し正確なパスは足から足へと渡り、親善試合とあってゆうゆうと遊んでいた感じで、決して無理をせず持つべき時は必ず持て無意味なキックはほとんど無かった。ちょっと過ぎたかも分らないが、とにかく日本に較べると大学生と中学生ぐらいの差はある。

このよくなグラスホッパーが欧洲のチームを相手に必ず勝つれるかと言えばそうでもない。欧洲チーム同士の試合を見たことないわれわれにとっては、このチームに問題なく勝つハンガリーはドン・イツは、というところになると全く雲一つない話で想像もつかない話になってしまった。

一方日本チームは持てる力を十分に発揮して仲々良くやっていた。戦後一番最初のスウェーデンのヘルシングボリュと戦った當時のびくびくした気持が無くなつただけでも大したもの。この試合は惜せざるがかりで予想以上のチヤンスがあり鶴田、重松の放ったシュートは一矢ものだった。だが試合後ヴィスラムも言つていてよう、「日本チームは蹴扱いが下手でバスが拙い」球を離してからの動きがない」は正にそのとおりで、五筋ぐらい前方にいるフリーの相手にバスをしたり、中途半端なタックルをしたため抜かれ追かけるのに倍以上消耗したり一人の相手に三本が同時にマークして互いに味方の体が邪魔になり、一人の相手にまんまと乗つて走る選手のスピードはちぐはぐで得点チャンスがあつたが、時間が経つにつれエネルギーが少なくなつて、巨体に似合わない細かいプレーの

グラスホッパー圧勝

日瑞親善サッカー試合

十二月十六日本国を出発、世

界一周旅行の途中、一月二十一日日本に立寄ったスイスのサッカーナイト、グラスホッパー・クラブは二十二日午後二時から後樂園競輪場で日本の東西選抜軍と対戦。うまい個人技で終始日本を圧倒、さすが名門らしい断然なる強味を見せた。

日本は前半なかごろまで慎重に守るホッパーに対し、鶴田、加納、鶴田のコンビによるロングバス、また重松のロンクショウトで得点チャンスがあつたが、時間が経つにつれエネルギーが少なくなつて、巨体に似合わない細かいプレーの

福助玄一
グラスホッパー
【グラスホッパー】
ツムチオン・エンソコ
サザンテ
コウジン・ガゲン
ントン
ミコロニーフラ
コシシフ・エハ・R・バ
G・K・R・B
F・H・F・W
C・K・K・K
C・F・G・P
下山・岡井・鶴田・高橋・高納
東西選抜軍
主審：村形繁明、練習：有馬洋
マ交代：大村（R.H.)

日本はゴール前に釘づけとなつたまま全くほんのりされ、わずかに前半36分RHフェッチのブッシングの反則により得たPKを加納が決めた。一点のみで終り、7-1で大敗してしまつた。

この日コンディションは絶好、

約一人の観衆はホッパーのうま

いプレーと初めて見るボルト(かんぬき)戦法に酔つた。なお同チ

ームは試合の翌日の二十三年前

午後三十分発のエール・フランス機で次の遠征地香港に向つた。

強行日程だった。

（主審：村形繁明、練習：有馬洋

マ交代：大村（R.H.)

グラスホッパーは予想以上のすばらしきだった。選手の背はそれ程高くないが肩幅は広く、胸板は厚く、おそらく平均一千貫もあるだろうという堂々たる体格である。しかも身のこなしは軽く、どういったまゝで自由奔放、それにダッシュが早く、大きな身体が突出する。全く思いがけない所で突然飛んでいた。味方の位置を瞬間に好判断し正確なパスは足から足へと渡り、親善試合とあってゆうゆうと遊んでいた感じで、決して無理をせず持つべき時は必ず持て無意味なキックはほとんど無かった。ちょっと過ぎたかも分らないが、とにかく日本に較べると大学生と中学生ぐらいの差はある。

このよくなグラスホッパーが欧洲のチームを相手に必ず勝つれるかと言えばそうでもない。欧洲チーム同士の試合を見たことないわれわれにとっては、このチームに問題なく勝つハンガリーはドン・イツは、というところになると全く雲一つない話で想像もつかない話になってしまった。

一方日本チームは持てる力を十分に発揮して仲々良くやっていた。

戦後一番最初のスウェーデンのヘルシングボリュと戦った当

時のびくびくした気持が無くなつただけでも大したもの。この試合は惜せざるがかりで予想以上のチヤンスがあり鶴田、重松の放ったシュートは一矢ものだった。だが試合後ヴィスラムも言つていてよう、「日本チームは蹴扱いが下手でバスが拙い」球を離してからの動きがない」は正にそのとおりで、五筋ぐらい前方にいるフリーの相手にバスをしたり、中途半端なタックルをしたため抜かれ追かけるのに倍以上消耗したり一人の相手に三本が同時にマークして互いに味方の体が邪魔になり、一人の相手にまんまと乗つて走る選手のスピードはちぐはぐで得点チャンスがあつたが、時間が経つにつれエネルギーが少なくなつて、巨体に似合わない細かいプレーの

が役目だ。グラスホッパーは

ノイコム（主将）がこの役目を

ついていかなかったため、乾いていた

ので良コンディションだったが、

現在日本に満足なグラウンドはない

向に飛んで行つたり、お客様を残念がらせていた。こういふ点ではグラスホッパーにはほとんどヒラー

が無かつた。球の行った所には必

ず味方がいるし、走る選手には実

にピッタリ合つたスピードの球が

行くし、単純な三角バスをするす

る抜いて行くのは全く気持ちが良い

くらいだった。

こういふ個人技に關し将来日本

は何とかうまくなるよう努力しな

ければならないのだが、やはり識

者が口を酸っぱにして言つてゐる

ように子供の時から球と遊ばせ、

親しませ氣長に育てて行く外ある

まい。そしてサッカーの本場のイギリスではおかみさんまで「ああ

いう時にはこうすべきだ」という

ことを知つてゐるそなだが、こ

の「ああしてこうしてこうなる」

といふ単純なサッカーの常識から

人間の常識が無さすぎるプレーが多い。

それから日本のサッカーの發展の障壁となつてゐるのはグラウンド

に対するため生まれたもの。現

在はスイスや南米が用いてゐる

2FBから姿形したもので、2FB

が綻び並び、番後のバックスは

カン良く動き、3FBがせり合つ

たこぼれ球、相手のドリブルがの

び切つた時球セントナー・リン

グの球をGKの前にあつて拾うの

Bが続に並び、番後のバックスは

カン良く動き、3FBがせり合つ

たこぼれ球、相手のドリブルがの



朝日招待 サッカー

第十三回朝日招待サッカー
は1月15、16の両日、良コ
ンディションの西宮球技場
で第1日は関東学生対関西
○B、第2日は関東のB対
関西学生が行われ、いずれ
も○Bが勝った。

解説 ここ数年来日本を代表する選手をどの順位から選ぶべきかをめぐって「古いOBはもう引退すべきた」「まだ学生のレベルは戦前まで達しない」「将来のことを考え、この際思い切って学生を育すべきだ」というような議論が古出來ている。その点でこの招待廿二ツカーは現在の主力が集めて何処にあるかを知る意味においても誠

關西〇	1	關西〇	1
日本選拔	2	日本選拔	1
關東學生	1	關東學生	1
立慶早立中教早立教	大教大教大教大教	立慶早立中教早立教	大教大教大教大教
城扇崎村野李	北宮大神深亞織浜山	北宮大神深亞織浜山	北宮大神深亞織浜山
G K F B H B	FW	C K F K G V	FW
工業大學阪工	洋學阪大都工	6 4 7	6 5 19
東大六大學大關東工	洋大關東工		
村路田角本田川田松			
下山岡兩杉宮鴉賓和藤重			

時は崩されタイとされたが、賀川、鶴田らの考証なコンビで徐々に主導権を取つたあたりはさすがだと思えた。だがこれは十年一日の如きOBプレーを学生が許したものと見る方が妥当で、しかもOBは十指を下らないチャンスに拘らず得点一辻く情けない。

●OBの場合は経験も多く、しかも意味を持っているがこれには絶対的な強さとは言えない。相手が強引なタックル、カットによって来なければ自由に持てる個人技を握っているので楽に試合出来ると、関西学生のように余り個性のない相手ですから積極的にプレーされると攻め手を失ってこの一試合を見て果して日本の代表選手層は何处にあるかといふことになる。

つかり、せり合つて相手の防護陣を打ち破る脚力と氣力の点では不満足である。このうまいを悪い見方をすれば「ずるぎ」ともいえないこともない。

◎学生はOBと対照的ではれば不満足である。相手に応じて自由に試合を変えて行なことが全くできない。(個人技の優れたと思われる関東の場合ですら)だが若い元気を持っており脚力もあるし捨身の果敢な試合ができる。(関西の場合)という二つの特殊性を持っている。学生が勝つためには若い元気で行くべり方法はないわけだ。

結局学生、OBともそれぞれ卑さを持つてゐるのだが完全でない。技術、体力、氣力、戦術などサッカーに必要な要素をすべて兼ねそなえている層が無いといふ結論になりそうだ。そして当分の間各層のそれそれの持ち味を生かし、それを如何に發揮して行くかが結論になりそうだ。

どうよるな方法をとつて行くか外ないという感が深い。その点でやはり現在は過渡期であり、この招待サッカーも現在は決して満足出来るものではなく、このOB対学生の試合が現在の日本のサッカーワールドをそのまま表わしているといふべきである。これはサッカーには開拓すべき分野が多くこの招待サッカーが充実した試合となる日が完全になれる時ともいえる。その日が一日早くかららんことをひそかに急ぐ気持ちで一杯だった。

結局先生、OBともそれをされ得る
さを持ってはいるのだが完全でない。
技術、体力、気力、戦術など
のサッカーに必要な要素をすべて
兼ねそなえている層が無いといっし
結論になりそうだ。そして当分の
間各層のそれぞれの持ち味を生かす
し、それを如何に發揮して行くか
というような方法をとって行く
外ないという感が深い。その点で
やはり現在は過渡期であり、この年
招待サッカーも現在は決して満足
出来るものではなく、このOB対学
生の試合が現在の日本のサッカーハ
界をそのまま表わしているといふ可
能性。これはサッカーには招撃すべ
き分野が多くこの招待サッカーが一
充実した試合となる日が完全にな
る時ともいえる。その日が一日早
めかららんことをひそかに急ぐま
持で一杯だった。

りここまで戦えたわけで、チーハーも金体の一致した気持さえあれば問題もなく、東学生のような中途半端な個人ハーレーは今、役に立たないといつて、も直く、関西学生の若い元氣のほうへばかりしがった。

早大対中大戦 前半35分中大
ゴール前草大のレーキ田、中大
のレーキ石井とせり合ってヘッド
イング、球はそのままDF藤田
(右端)にわたら、彼がゴール
を決めた。



関東大学サッカー・リーグ

明立戦は引分に終る

関東大学サッカー・リーグ戦は十六日、約一ヶ月半にわたる日程を開幕した。第一日は午前十一時から神島競技場、明大対立大、慶大対教大、早大対中大の三試合が行われ、明立戦が引分けになつたが、教大は慶大に、早大が中大にそれぞれ快勝した。

立 大 2

（引分け）

明 大 2

（引分け）

立 大 2

（引分け）

明 大 2</b

明大、予想外の健闘

関東大学サッカー・リーグ第一
サッカー

中大

立大

東大

明大

CKFK

GFK

HFB

FW

PK1

PK2

FW

PK1

PK2

FW

CKFK

GFK

HFB

FW

PK1

PK2

FW

CKFK

GFK

HFB

FW

CKFK

GFK

HFB</p



サッカー早大対教育大戦、前半44分
教育大CF鈴木のシュートは惜しくもバーに当つてゴール成らず

早大、優勝へ前進

関東大学 サッカーリーグ 第三回

関東大学サッカーリーグ第三回
は十月三十日、早東、慶立、明教、明東戦がそれぞれ神宮競技場で行われた。特に早大対教大の試合は無敗同士の戦いで興味を呼んだが、前半押し気味だった教大もついに得点なく、早大が後半17分一点を挙げて幸勝、優勝へ一步前進した。

合った四ツ相撲の感があつてスピードとスリルは現われなかつた。

後半、早大FWはようやくボールをキープ出来て良くパスを回しCF織田、LW八重樫のドリブルから教育大ゴールをおびやかした

16分H櫻田からCF織田に渡り更に中央へ突っ込んだRI大橋受けてペッグラインを突破してゴールを割りようやく均衡が破れた。

教育大は奮起の意氣を示してバックスのロング・キックからFWの突っ込みを敢行したが、早大C

H伊藤良くヘッディングで防ぎ、30分ごろからは教大バックスの前進につけ込んで早大FWに好機多々八重樫、織田、大橋とショットを放つたが惜しくも外れた。

攻撃力のある早大が勝利を得たのは頗当ともいえるが、両F.B.が

も懸念上級生選手とこちよつとだらしがない。今シーズンの早大は伝統の豪氣を何とか忘れ去っているようだ。H.B.の伊藤、織田、F.W.の八重樫、大橋の二年選手の活躍に支えられて幸くも勝つもの、殊勳は若手選手のがん張りと評すべきであろう。

田、F.W.の八重樫、大橋の二年選手の活躍に支えられて幸くも勝つもの、殊勳は若手選手のがん張りと評すべきであろう。

田、F.W.の八重樫、大橋の二年選手の活躍に支えられて幸くも勝つもの、殊勳は若手選手のがん張りと評すべきであろう。

田、F.W.の八重樫、大橋の二年選手の活躍に支えられて幸くも勝つもの、殊勳は若手選手のがん張りと評すべきであろう。

田、F.W.の八重樫、大橋の二年選手の活躍に支えられて幸くも勝つもの、殊勳は若手選手のがん張りと評すべきであろう。

早 大	1	0	0	0	教 大
G K F B	H B	F W	G K F B	H B	F W
【早 大】	【教 大】	【早 大】	【教 大】	【早 大】	【教 大】
世井崎 田藤田 野橋田 重	杉大織平八	内野山 原津水 宮本勇持村	米板宮 吉伊澤	田原崎川 富川吉井野	中村吉野 鶴松大織平八
12 15	5 11	18	18	14 17	13 13
東 大	4	0	1	0	明 大
G K F B	H B	F W	G K F B	H B	F W
【東 大】	【明 大】	【東 大】	【明 大】	【東 大】	【明 大】
坂村井 橋柳島 林田 山沼間	十原 倉袋 服岡山 中島	田風田 田見部野 島田	内田三 村菅原 村田 正中	松大神 田景小 二藤佳 酒耳	柳岡 嵐田 見野 田野島松
10 15	4 13	13	6 14	4 17	12 26
立 大	3	1	1	2	東 大
G K F B	H B	F W	G K F B	H B	F W
【立 大】	【東 大】	【立 大】	【立 大】	【立 大】	【東 大】
横野 畑嶺 柳島 小林 鈴倉 鈴	内中山 原津水 宮本勇持村	坂田水 橋農林 山沼間	田川藤 原崎川 富川吉井野	松小神 田宣三 二脇上 潤耳	中村吉野 鶴松大織平八
13 0	3 6	13	15 22	12 10	13 9
早 大	6	3	3	0	東 大
G K F B	H B	F W	G K F B	H B	F W
【早 大】	【東 大】	【立 大】	【立 大】	【東 大】	【東 大】
島井崎 田藤田 野橋田 重	柳岡 嵐田 見野 田野島松	中村吉野 鶴松大織平八			
12 26	6 12	13 9	12 10	12 10	13 9

S30-12-1



立大対教大＝後半26分、立大ゴール前の競合い、右から立大CH
景山、教大CF志村、立大LH武井（11月12日・後楽園競輪場）

関東大学
サッカーリーグ



早大対慶大＝後半開始直後、早大LW八重樫のセンターリングCF
織田うけて更にR橋にバス、大橋巧みなドリブルでゴール前
に持込みシュートなる、慶大GK桜田（11月19日・神宮競技場）

慶善戦、早と引分く

立大・教育大に敗る

関東大学サッカー・リーグ第十五
週慶明、中東、教立の三試合は十一
月十二日後楽園競輪場で、第六
週の早慶戦は十一月十九日、中教
立東の二試合は十一月二十日それぞ
れ神宮球場で行われた。今シ
ーズン土つかずの早大は慶大的善
戦にあい2-2の引き分けに持ちこ
まれた。

関東大学サッカー成績						
(20日まで)						
	早教立慶中東明	試勝	分	点	立	慶
早大	×○△○○○	5	4	9	1	9
教大	●○×○○△○○	6	4	1	9	9
立大	●○×○○○○○△	5	3	3	2	4
慶大	△○○○○○○○○	5	5	5	1	2
中大	△○△○○○○○○○	5	5	1	1	3
東大	●○●○○○○○○○○	5	5	1	1	3
明大	●○●○△△△○○○	5	0	2	2	2
敗	0 1 1 2 3 4 3					

【評】立大対数大
い当りと出足で攻め、数大ゴール
前で浮球を使ってしばしばチャン
スを得た。とくに前半10分ころ運
喰一本の左右からのOKは好球と
なって飛んだが、ゴール前で彼我
もつれ合うちもに最後のキメ手が
おらず得点にならなかつた。
教大はショート・バスを主用、
両ウイングからC区に球を集め、
O-F志村はキープ、またはスルー
して両インナーが架込みこれまた

立派な後半戦。攻め20分過ぎにKの出過ぎたスキヘ、志村がゴール大陣に攻め込み、鈴木勇が右からパスを送り、鈴木中が突込み、G備に防がれたのは誠に惜しいものであった。その後再び攻教は立て続けに攻め込み、鈴木勇が右からパスを送り、鈴木中が突込み、GKの出過ぎたスキヘ、志村がゴールして均衡は破れた。

セントアーリングを日中がスタート、
をつけ蹴り込んでヘッディング、
これはゴールのバーの上をわざわざ
に越えた。立大はその後も良くや
め後半は数回にチャンスをほとも
と与えられないほどの出来はえだつま
がついに無得点、惜敗してしま
った。

早大が慶應は、単回の三分で、あるいは七分二分と早大側に絶対有利な予想が立てられていたが、早慶戦なるが故の因縁か、またしても2-2の引きとなつた。(戦績は早大13勝8敗10引分)

またとない二つのチャンスを得た。一本は内田の真正面からのシート、これはGK横内の好守に

んとしたが、異大バックスのマークくずれず前半は五分五分のがつちり組んだ戦況であつた。

スコアの示す通り今シーズン唯一の好試合であり、最後までゲー
分けに持ち込んだ。

19分左右に教大バッケン
押し始め、スをゆさぶつて流れた球をLH石
黒拾つてロングショートを放て

なんとしたが、早大バックスのマークくずれず前半は五分五分のがつり組んだ戦況であった。
しかしながら後半開始一分にして早大はLW八重樫のパスをRⅠ大橋左足で受けてすかさず右足の巧みなショートを放つて慶大ゴル右下隅を割った。ようやく気分的重圧から開放された早大は巧みなパスを回して慶大を庄し続けたが、慶大バックスは必死のタックルと果敢なパンチ。キックによつて防ぎ止め、28分には慶大LW耳野が早大バックスの気抜けの擣立状態に乗じて正面二ヤードからブレインド。ショートを放つば、球は早大RⅧ吉田の足に当つて方向転換してGK米世の逆を行つて転々ゴール右下隅にころがり込んで同点。タイ・スコアにいきり立つた早大FWは41分RW杉野が突入しGK松田をも抜いて横に流すのをフオローしたLI平林が決めて2-1と再びリードして勝敗は決したがに見えた。

しかしタイムアップ寸前慶戦らしい奇跡が起つた。最後の縦反撃に出た慶大はCH宮崎が早大ゴル正面に平凡なチャージボールを上げれば、早大GK米世は魔に取りつかれた如くゴールにへばり付き慶大FWと早大スリー・バックスが競り合つてのこぼれ球を慶大FW酒井シュー一トして2-2の引き分けに持ち込んだ。

スコアの示す通り今シーザー隨一の好試合であり、最後までゲー

員の満々たる闘志は絶賛に値するものであった。技術の劣勢を氣力のおう盛さによって十分カバーした慶大は、出足の銳さをぐっと増して一步一歩早大を制していくことが殊難の因であつた。この出足の良さが守つては早大のパスワードを見事インターーセプトしたり攻めでは早大バックスに立ち直る余裕を与えてきめて効果的なシートを放つていた。早大はウイークボイントたる右隅をねらわれて苦境に陥つていたがCH伊藤、GK米世の気分的あがりが大きな手でもあつた。(工藤 孝一)

敵大対中大 前半10分ごろまでは中大の出足早々の攻撃が続いたがPKに失敗してからは中大が多くの状態となり、持ち前のショート・バスも鋭さを失いて無駄バックスに流れた。教大は伝統のロン

グ・バスを多用したが、FWの足並をさわはず中大ゴール前の瀆は入りに引つかつてしまつた。後半に入つた教大の動きは見違えるばかりの鋭さを増してRⅠH松木の上に投げたロング。ボールのこぼれ球をRⅡ鈴木引っかけて左に抜けてシート成り、ようやく先取得点をあげた。

これに奮起した中大はじりじり

押始め、19分左右に教大バックスクをゆざるつて流れた球をLH石で黒拾つてロンクショートを放てば教大GK横内自測を誤つてゴールを許して同点となり、ゲームは異常な白熱戦となつた。その後教大もPKを得たがGKの正面について無為、タイムアップアフド直前教育大FWのシュートがバーに当つて弾き返るチャンスもあつたが、そのまま引分けに終つた。両チームとも作戦的には良くその特色を生かして好試合を演じたが、色歩の無理が利かずシュートの機会を逃していた。

S 31-1-15

浦和高がまた優勝

断然優勢だった東日本

全国高校サッカー

第三十四回全国
高校サッカー選手権は地区代表十

校が集まつて百

から五日間西宮で行われたが、中

関東代表浦和が二年連続、三回

目の優勝をとげた。なお優秀選手

として次の十二名が選ばれた。

【優秀選手】志賀広（浦和）李冒
嶺吉屋（西谷農業）（藤枝東）
熊沢宏（青山学院）荻原泰雄（宇
都宮）広瀬法（浦和）三浦寛
(秋田商)八木隆男（浦和）井
次高四郎（藤枝東）小浜勇（秋
田商）高橋重隆（秋田商）中村
義人（関西）

（浦和）李冒
嶺吉屋（西谷農業）（藤枝東）
熊沢宏（青山学院）荻原泰雄（宇
都宮）広瀬法（浦和）三浦寛
(秋田商)八木隆男（浦和）井
次高四郎（藤枝東）小浜勇（秋
田商）高橋重隆（秋田商）中村
義人（関西）

△一回戦

△二回戦

△準決勝

△決勝

△一回戦

△二回戦

△準決勝